

研究課題：超音波 shear wave elastography (SWE) を用いた頭頸部・体表病変の質的診断に対する有用性についての検討

実施責任者： 放射線医学教室 医員 芳賀真代
実施分担者： 放射線医学教室 教授 吉川公彦
総合画像診断センター 教授 平井都始子
総合画像診断センター 講師 丸上永晃
放射線医学教室 助教 丸上亜希
皮膚科 医員 正嶋千夏

研究目的：頭頸部・体表病変の超音波診断において、質的診断に B モード、カラードプラに SWE を加えることで正診率が向上するかを検討する。

研究意義：頭頸部・体表病変のスクリーニングや精密検査には、非侵襲的で空間分解能に優れた超音波検査が第一選択となっています。通常は B モードとカラードプラによる、形態情報や血流情報から鑑別診断をしていますが、ときに診断困難で細胞診や針生検など侵襲的な検査が必要な場合もあります。近年注目されている SWE は、非侵襲的に数秒間で shear wave の組織伝搬速度を計測することにより定量的に組織の硬さを評価できる手法で、現在、肝線維化の評価や乳腺腫瘍の良悪性鑑別診断に用いられ有用性が報告されています。頭頸部・体表病変の超音波検査においても、SWE の情報を加えることで正しく診断できれば細胞診や組織診などの侵襲的な検査を回避できることが期待できると考えています。

対象：奈良県立医科大学超音波検査室で 2018 年 3 月 31 日まで通常の診療で頭頸部・体表病変を疑い超音波検査を施行する患者様が対象となります。

研究期間：この研究は、奈良県立医科大学倫理委員会承認年月日から平成 28 年 3 月 31 日まで行う予定です。

研究方法：従来の B モード像、カラードプラ像での評価と、SWE の組織伝搬速度を含めた場合の評価を比較して、鑑別診断の正診率を検討します。外科的切除または細胞診が施行された症例はその結果を最終診断とし、1 年以上の画像による経過観察で変化がないか縮小した場合は良性病変として評価します。

当該研究に参加することにより期待される利益および起こりうる危険ならびに必然的に伴う心身に対する不快な状態について：本研究は非侵襲的な検査であ

りリスクはない。SWE を加えるため超音波検査時間は数分延長する可能性があります。使用する超音波装置や撮像方法は一定とし超音波部のスタッフと協力し検査を施行します。対象患者様に、その他の負担やリスク、利益は生じません。

個人情報の取り扱い：収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたしますので、個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会などで発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

その他：この研究のために、患者さんに新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。また、研究の対象となる患者さんに謝礼はありません。

この研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。

上記の研究の対象に該当する患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合には、奈良県立医科大学付属病院 中央内視鏡・超音波部 までご連絡ください。

実施責任者： 放射線医学教室 医員 芳賀真代
実施分担者： 放射線医学教室 教授 吉川公彦
総合画像診断センター 教授 平井都始子
総合画像診断センター 講師 丸上永晃
放射線医学教室 助教 丸上亜希
皮膚科 医員 正嶋千夏

問い合わせ先：奈良県立医科大学 放射線医学教室 芳賀真代
連絡先 0744-29-8900